

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597330020		
法人名	社会福祉法人 施福会		
事業所名	グループホーム みずき		
所在地	山口県熊毛郡田布施町大字宿井416-4		
自己評価作成日	平成27年9月30日	評価結果市町受理日	平成28年7月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成27年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者主体の生活の中で、家事や調理など今までされてきたことを行いながら、それぞれの生活スタイルで過ごして頂きながら、ゆっくりのんびりとした生活して頂いています。食事作りは、3食とも手作りをしており、畑の野菜作り、買い物、調理、片付けなど利用者の皆さんと一緒に楽しみながら行っています。 また、地域の行事や外出など馴染みや楽しみを取り入れた日中活動を行い、敷地内の遊歩道、花壇、野菜畑があり、四季折々の楽しみを見つけて過ごされています。 その方の「想い」を知り、寄り添い、共に過ごす中で喜びや悲しさを共有し、職員と利用者さん、利用者さん同士が共に助け合って過ごして頂けるよう努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三食とも事業所で食事づくりをされています。献立づくり、買い物、下ごしらえ、調理、盛り付け、配膳、食器洗い、食器収納までの一連の食事づくりを利用者が中心となって行っておられます。事業所の畑で採れた新鮮な旬の野菜や家族の差し入れ、地域の差し入れ(米)などの食材を上手に利用されています。ソーメン流しやバーベキュー、おはぎ、ぜんざい、ホットケーキ、たこ焼き、巻きずし、おせち、弁当を買って戸外で食べたり、月1回の調理レクリエーションなど「食」を通じた様々な取り組みの工夫をされて利用者の食事が楽しみなものになるように支援しておられます。スーパーへの買い物、図書館、週1回、交流館に出かけ地域の人との交流、地域の行事(桜まつり、公民館祭り、福祉ボランティア祭り、どんど焼き、消防出初式)の参加、ちょうちん祭り、普げん祭り、周南市民館(コンサート)、梨狩り、みかん狩り、貝掘り、海水浴場、動物園などのドライブ、季節の花見(梅、桜、コスモス、バラ、紅葉)など外出の機会が多く、四季折々楽しく過ごせる支援をされています。職員は日々寄り添うケアに努めておられ、利用者へやさしく言葉をかけておられ、利用者同士もお互いに助け合って楽しく過ごしていただける様子が伺えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が考え作りあげた物を理念として掲げており、事務所内に掲示し、ミーティングで共有するなど、日々のケアに活かしている。	外部評価結果を受けて、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念「みずきは、緑に囲まれた静かな地にあります。住み慣れた地域で、和やかな家庭的な雰囲気の中、ゆっくり、のんびり、その人らしい生活が送っていただけるようお手伝いします」を職員全員でつくり、管理者と職員はミーティングやケアに入る前に理念の確認をし、共有して実践につなげている。理念を事業所内に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区小学校の運動会や公民館祭りなど招待があり、話ボランティアの来訪、日常的な買い物やドライブや地域の行事にも参加し交流を図っている。	地域の行事(桜祭り、公民館祭り、どんど焼き、福祉ボランティア祭り、消防出初式)、幼稚園や小学校の運動会に参加している。傾聴ボランティアやアロマハンドセラピー(2ヶ月に1回)、福祉ボランティアの来訪の他、高校生の実習の受け入れをしている。法人の夏祭りに地域の人々や家族の参加もあり、利用者も一緒に参加して交流している。週1回、交流館に買い物に行き地域の人と日常的に交流するなど、地域との絆を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町が実施している認知症の家族会への参加したり、施設内の見学の受入れをし交流の場を設けている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	個々で自己評価を記入し、ミーティング等で話し合いまとめた。評価から再確認し、応急処置対応の勉強会をする機会を設けたり、援助計画書についての様式の見直しなど行った。	評価するための書類を全職員に配布し、記入してもらい、前回、本人が記入した自己評価を比較して、見直しに取り組んでいる。わからないところは管理者が項目ごとに説明し、ミーティングで話し合い管理者がまとめている。前回の評価結果を受けて、理念の見直しをしたり、応急手当の訓練を行うなど改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を行い、活動状況等報告し、意見交換をしている。救急対応について意見があり内部研修や講習を行った。	会議は2ヶ月に1回開催し、活動報告や事故報告、行事報告などを行い、意見交換をしている。運営推進会議でメンバーである消防署員の意見を活かして、消防署の協力を得ての、火災避難訓練を実施している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町へは、利用状況や待機者の状況を報告している。疑義や新たな申請事項が生じた時は、その都度相談し助言を得ている。	町の担当者とは、運営推進会議時に情報交換している他、直接出向いて相談し、助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、研修で学び、身体拘束について正しく理解をしている。日中、玄関は施錠をしておらず、身体拘束をしないケアをしている。	マニュアルがあり、職員は内部研修で学び、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックに気づいたら、職員同士で注意し合ったり、管理者が注意している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加やミーティングの中で取り上げ、虐待防止について学び、虐待は行われていない。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用者に成年後見制度を利用されている方がおられ、学ぶ機会がある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点にも十分説明を行い、ご理解を頂いた上で、契約の締結をしている。改定の際にも説明を行い承諾を頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付体制の処理手続きを定め、契約書に記載し、契約時には家族への説明を行っている。日常の要望などは気軽に声がかけられるような関係作りに努めている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。毎月の事業所だよりに、利用者一人ひとりの写真とコメントを入れて送付したり、面会時に家族から意見や要望を聞いている。家族から利用者が日記を書いていたという意見があり、対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時、直接職員の意見や提案を聞いている他、週1回の代表者会議で職員からの意見を運営に反映できる機会を設けている。	管理者は毎月のミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、業務の中で聞いている。週1回の代表者会議で職員の意見を反映させる機会を設けている。休憩時間が取れる体制づくりの検討について意見があり、勤務体制を変えるなど意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況に応じて、給与や福利厚生の実態にて職場環境、条件整備に努めている。代表者は日常的に施設へ来訪がある事で職員の向上心へと繋がると思われる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にもできるだけ参加する機会を設け、勤務時間帯に行っている。個別研修については研修報告をし全員に周知を図っており、日々の業務の中でも職員間で意見交換等しながら認知症介護について学び習得している。	外部研修は職員に情報を伝達し、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供し、多数の職員が参加している。参加後はミーティングなどで復命し、全員で共有し、働きながら知識を身につけていくように支援をしている。内部研修はミーティングでその時に必要なテーマで研修を実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ加入をしている。勉強会へは全員の参加はできていない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問で穏やかな状態でゆっくり本人から話が聞けるようにしている。アセスメントは介護支援専門員が情報収集しケアに繋がる情報の他、家族や本人から聞き取った情報を職員で共有する。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に情報収集をし、ご家族や本人の不安をじっくりと聞き、見学を含め説明を行い、安心して入居できるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの段階から、ご家族や本人が必要としている要望を見極め、他事業所への紹介や包括や居宅の専門員とも連携を取り適切に支援している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や調理などできることはしていただきながら、職員も感謝の気持ちを持ち、お互い支え合っている。また状況を作ることで利用者同士の助け合いも自然に生まれている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各々利用者への便りを作成、毎月送付している。日々の生活やご本人の言葉も電話や来訪の際に伝えている。来訪時にもご家族と一緒に過ごしやすい環境を整える。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家の近くや馴染みの道を通ったり、生活していた場所に行っている。買い物の際、馴染みの方に出会う事もある。馴染みの場所や人に出会うことで記憶や感情を思い出してもらえるよう支援している。	家族、友人、知人、親戚の人の来訪がある他、法人施設の利用者との交流を支援している。買い物や美容院の利用、図書館に出かけたり、家族の協力を得て、外泊や法事への出席、墓参りなど馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩や調理等、環境作りや最小限な支援をし、利用者同士が関わり合えるような支援をしている。雰囲気づくり、席などの配置などの工夫もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、退居されたご家族からの相談もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々会話や寄り添うことを大切にしている。言葉だけでなく表情や心を読み取り、個別記録に記入し、暮らし方や意向の把握をしている。	アセスメントやセンター方式のシートを活用している他、家族からの一言や日常の会話、利用者の様子などを個別記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。利用者担当制を取っており、寄り添うケアの中で把握したものを、個別記録に記入し、暮らし方の希望や意向の把握をしている。困難な場合は本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者同士、普段の何気ない会話からも馴染みの暮らしを見せてくる。その人らしい生活に繋げていくよう努力している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を見守りながら、日常生活の中で感じた事や気づきを介護記録に記載し、職員間で共有することでケアにつなげている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との対話の中で得た課題や要望を、職員間で共有し、月1回のケース会議で情報を元に話し合いケアプランにつなげている。	本人の思いや家族の意向、要望などから利用者を担当している職員が介護計画案を作成し、カンファレンスで話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた場合はその都度見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に、気づきや本人の言葉、出来事等を記載し、職員が共有できるようにしている。目標の達成度が分かりやすいよう同ファイルにケアプランを閲覧できるように工夫し、ケアプラン見直しにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	宿泊の家族の布団の貸し出しや食事提供や遠方のご家族の病院への送迎など個々の要望に合わせた対応をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物や図書館、美容院、施設利用や地域の行事の参加、話ボランティアなど地域の方と交流を図っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関に定期受診を行っている。かかりつけ医とも良関係を保ちながら、心身の情報を伝え、家族とも連携を図っている。	本人や家族が希望する医療機関をかかりつけ医として、家族の協力を得て事業所が受診の支援をしている。看護職を確保し、利用者の健康管理や状態変化、緊急時の相談、対応など、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師の職員を常勤している。日頃から介護職との関係を密にしながら、健康管理に努め、必要な時は、相談をし、適切な受診が受けられている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療機関に情報提供を行い、家族との連絡も行っている。早めにホームへ帰苑できるよう連絡調整を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が実際に重度化した場合、本人やご家族の希望に出来るだけ添う形で、主治医や家族で話し合い方針を共有している。帰居が困難な場合は移設への支援もしている。	契約時に重度化した場合や終末期の事業所の方針について、家族に説明している。重度化した場合は、家族や主治医、関係者と話し合い、法人内施設や病院への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生の際、ヒヤリハットや事故報告を提出し、前職員で把握し、ミーティング等でも、応急手当や初期対応の内部研修を行っている。	ヒヤリや事故発生時に、ヒヤリハット、事故報告書に記録し、その場にいた職員で対応策を検討し、申し送り時に職員間で共有し、カンファレンスで一人ひとりについて話し合い事故防止に取り組んでいる。ミーティング時に骨折への対応、発熱時の対応など、応急手当や初期対応の内部研修をおこなっているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て日中・夜間想定した火災時避難訓練や消火器の使い方を年2回実施している。地域との協力体制として運営推進会議委員の方にも訓練に参加して頂いている。	消防署の協力を得て、日中、夜間を想定した火災時避難訓練を実施している。運営推進会議で避難訓練を実施し、全員が避難する時間を図るなど、地域の協力を得て訓練を行っている。法人と地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや内部研修で人格の尊重の大切さについてわからない対応について話し合いをしている。プライバシーに配慮した、目立たずさりげない声掛けや対応を心がけている。	一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保についてミーティングや内部研修で学んでおり、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択しやすい工夫をし、必要以上の支援は行わず見守り、利用者自身が自己決定する場面が作れるように心がけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	対話の中からも自然に散歩や外出ができるよう支援している。時間や行動を制限せず、その人に合った一日を過ごして頂けるよう努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には自らおしゃれされている方が多い。困難な方は、清潔やご本人らしい身だしなみができるよう声掛けや選択できるよう支援をしている。馴染みの理美容へご家族の協力を得て利用されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物・調理・盛り付け・片付けまで利用者さんと一緒に食事作りを行っている。調理は、利用者主体で支援し、それぞれの個性や出来る事を生かせるよう工夫している。時には屋外で食事をしたり外食も楽しんでいる。	三食とも事業所で献立から買い物、下ごしらえ、調理、盛り付け、配膳、食器洗い、食器収納までの一連の食事づくりを利用者を中心に行っている。事業所の畑で収穫した旬の野菜や家族からの差し入れ、地域の人の差し入れ(お米)、業者からの食材の購入などで事業所で調理している。利用者と職員は同じテーブルを囲んで同じものを食べ、会話をしながら食事を楽しんでいる。ソーメン流し、バーベキュー、おはぎ、ぜんざい、ホットケーキ、たこ焼き、巻きずし、おせち、お弁当を買って戸外で食べたり、月1回の調理レクリエーションなど「食」を通して様々な取り組みを工夫し、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合った食事量・水分の提供に努めている。1日を通じてケアチェック表も確認しながら水分が十分摂取できるようしている。食事確保の難しい方は代替品や時間や場所を考え個別対応している。同法人内の管理栄養士にアドバイスをもらっている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、個々に合わせた対応で、声掛けが必要な場合はしている。歯磨きは習慣化してきている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄の確認をし、一人ひとりに合った声かけや誘導をしている。パットの使用を試したり排泄間隔を知ることで改善できた場合もある。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩など取り入れたり、出来るだけ自然な排便が促せるようにしている。下剤服用の方もおられるが水分補給・野菜・ヨーグルト等工夫している。声掛けや誘導が必要な方はさりげない声掛けや誘導により不快にならないよう配慮している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その時の状況を考慮し入浴したいと思える環境作りや工夫をしながら声掛けをしている。リラックスして入浴できるよう、安全に気をつけ、ひとりの時間も大切にしている。	入浴は毎日、14時から17時頃まで一人ひとりの希望やタイミング、体調に合わせて入浴が楽しめるように個々に応じた入浴の支援をしている。利用者の状態に応じて足浴、清拭、シャワー浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩など体を動かし、夜間安眠につながるように支援している。個々の体調に合わせて休息も取って頂いている。就寝時間は、その方のペースや状態もあり考慮している。夜間の照明や室温調整を個人に合わせて対応している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の一覧表が職員にいつでも確認できるようにしている。薬変更については全職員に連絡し、既往歴や薬の効力・副作用についても理解できている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で自然とその方の合った役割が出来ている。個々の得意な事が活かせる支援はまだ不十分で今後の課題である。	テレビやDVD視聴、新聞や本を読む、日記を書く、ちぎり絵、貼り絵、ぬり絵、折り紙、ラジオ体操、テレビ体操、散歩、習字、編み物、生け花、畑づくり(白菜、さつまいも、キャベツ、玉葱、)、花壇づくり、干し柿づくり、食事の準備や片づけ(買い物、下ごしらえ、調理、盛り付け、食器洗い、食器収納)、洗濯、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、布団干し、庭掃除など、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援、買い物やドライブなど希望に添えるようにしている。日常的に散歩や戸外での日光浴をしている。自宅や生家、馴染みの神社などにも家族とも連携を取りながら支援している。	事業所周辺の散歩や買い物、図書館、交流館に出かけたり、ちょうちん祭り、普げんまつり、周南市民館(まどみちよコンサート)、梨狩り、みかん狩り、貝掘り、海水浴場、動物園などのドライブ、季節の花見(梅、桜、コスモス、バラ、紅葉)など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭の管理できる方は、外出時、好きな物を買ったり、受診の支払いなど所持して頂いている。買い物の目的を本人に確認し、品物の内容や小銭やお札の使い方も確認している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを書かれる場を提供している。ご家族との電話のやり取りは、希望に添って対応している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配置替えは固定せず状況に応じて空間作りをしてる。音や光など落ち着く場所づくりを常に考え工夫している。	共用空間は明るく、広々としている。テーブル、椅子、ソファ、炬燵、長椅子など、利用者の居場所を配慮して暮らしやすいように配置し、テーブルの上に季節の花を生け、季節感を採り入れている。壁面には、利用者と一緒につくった季節にあわせた作品を飾ったり、利用者の活動している写真を飾っている。写真を自由に持ち帰ることができるように壁面に写真袋を掲示している。温度、湿度、換気に配慮して、利用者が居心地良く過ごせるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	衝立で仕切ったり、ソファの向き、また各場所に椅子を配置するなど一人でも皆でも過ごせる空間作りをしている。環境をすることで、自然に会話が生まれたり、自分で居場所を見つけたり、利用者さん同士の関わりがある。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族とも相談の上、本人の馴染みの物や使い慣れた物を置いている。居室の空間が居心地良いと思えるよう、写真や懐かしいものを飾ったり、配置を考えたりしている。小さな観音様を置いて手を合わせている方もおられる。	箆笥、椅子、テレビ、ラジオ、布団、時計、鏡、化粧品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、思い出の写真や花を飾り、利用者が落ち着いて過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	デイルームの配置を、利用者さん同士で話し合ったり、助け合えるような空間作り(机やイスの場所、区切られた空間など)を提供している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみずき

作成日：平成 28 年 7 月 12 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が応急手当や初期訓練の実践力を身につけられるよう定期的な訓練の実施。	一人ひとりの状態に応じた初期対応・応急手当の習得を行う。	救急救命の講習会に参加する。年間の内部研修計画の他、マニュアルを確認しながら、初期対応・応急手当の研修及び演習を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。